

滋賀県民のみなさまからの声

# 滋賀医大県民アンケート 調査の概要

平成18年3月

滋賀医科大学



## 「滋賀医大県民アンケート 調査の概要」の発行にあたって

滋賀医科大学長 吉川 隆一  
(きっかわ りゅういち)

国立滋賀医科大学は平成16年4月1日法人化され、「国立大学法人滋賀医科大学」となりました。文部科学省の一組織であった滋賀医科大学が文部科学省から離れ、独立した法人が運営する大学となったわけです。この法人が運営する大学はあくまでも「国立大学」ですので、学校法人が運営する私立大学とは異なります。いわば、国立大学法人は国から「国立大学」の運営を任されている図式となっています。したがって、私立大学のように入学料や授業料を勝手に決めることは出来ません。国の示す標準額に準じて決めなければなりません。また、教職員の給与も国の基準に準じて決めるよう求められております。国から大学運営に必要な運営費交付金をいただいているので、止むを得ないことです。

しかし、法人化によって大きく変わった点がいくつかあります。例えば、大学の運営は大学が自主的に決めることが出来るようになりました。国から交付される運営費交付金の使い方も大学が自由に決めることが出来ます。したがって、各大学がどのような使い方をするかによって今後国立大学間で大きな違いが生じてくる可能性があります。言葉を変えれば、大学の個性化が進むものと思われれます。

反面、運営費交付金をどのように使っているかを、納税者に直接説明しなければならない義務が生じました。特に、大学が立地する地域の方々には大学がいかに活動し、どのような成果を上げているかを、また地域社会にいかに貢献しているかを、よく理解していただかねばなりません。地域社会からの理解、支援が得られなければ大学が十分な力を発揮することが出来ないとも云えましょう。

では、滋賀県に立地する滋賀医科大学は県民の方々からどのように思われ、あるいは評価されているのでしょうか？ 学長就任に際し、「地域に支えられ、世界に挑戦する大学」を目標に掲げましたが、「地域にどの程度支えられているのか？」が判らないままスタートしたのではないかと反省しております。今回法人化するに際し、「県民の方々からどのように捉えられているのか、どの程度理解されているのか」を知るために「県民アンケート調査」を実施いたしました。新聞などに掲載される世論調査と同様の方法を用い、客観性の高い調査を行うことが出来ました。調査にご協力いただきました県民の皆様に篤く御礼申し上げます。

国立大学は文部科学省に設けられました「国立大学法人評価委員会」によって評価されることが義務付けされておりますが、地域密着型の大学運営を目指す本学にとって、地域の方々によってどのように評価されるかは大変大事な参考資料になると考えております。今後も継続して同様の県民調査を行い、本学の活動の是非を判断する参考としていきたいと思っております。

## CONTENTS

---

県民アンケートの概要	2
------------	---

---

### 1. アンケートの集計結果

(1) 社会的属性	3
(2) 滋賀医科大学との関わり	5
(3) 滋賀医科大学に対するイメージ	5
(4) 現在の滋賀医科大学に対する評価	6
(5) 滋賀医科大学の卒業生を知っているかどうか	6
(6) これからの滋賀医科大学に求めるもの	7
(7) 滋賀医科大学の将来像	8
(8) 滋賀医科大学の今後についての関心	8
(9) 大学の広報活動	9

---

### 2. 主な項目間の相互関連

(1) 居住地から見た特徴	10
(2) 滋賀医科大学との関わりから見た特徴	12
(3) 滋賀医科大学に対するイメージから見た特徴	14

---

主な自由回答	16
--------	----

---

まとめ	21
-----	----

---

アンケートの結果を受けて	22
--------------	----

---

## 県民アンケートの概要

1. 調査地域 滋賀県内全域
2. 対象者 県内に在住の20歳以上80歳未満の3,000名
3. 調査時期 平成17年8月～9月
4. 調査の目的 今後の大学運営の参考とするため、県民の方々が現在の滋賀医科大学をどのように捉えているかを知る。
5. 対象者の抽出方法  
県内の33全市町(調査時)から、人口比率により対象者3000人を無作為に抽出させていただきました。
6. 調査方法 郵送法による自記式無記名の調査票を用いたアンケート調査
7. 回収率 回答者 1,188人(回収率 39.6%)

# 1 アンケートの集計結果

## (1) 社会的属性

### ①性別

区 分	人数	%
男	569	48.3
女	608	51.7
計	1,177	100.0

女性が51.7%とやや多くなっている。後で述べるように男性よりも女性の方がきびしい回答を寄せているようである。

### ②年齢

区 分	人数	%
20 ~ 29 歳	65	5.5
30 ~ 39 歳	181	15.3
40 ~ 49 歳	255	21.5
50 ~ 59 歳	384	32.5
60 歳 以上	298	25.2
計	1,183	100.0

50歳代が32.5%を占め、最も多くなっている。滋賀県全体では今回対象とした20~79歳の人口における50歳代の比率は19.5%なので、50歳代の人々の関心がいかに高いかがわかる。

### ③職業

区 分	人数	%
農 林 水 産 業	11	0.9
自 営 業	138	11.7
会社員・団体職員	385	32.7
公 務 員	103	8.8
パート・アルバイト	168	14.3
家 事 専 業	160	13.6
学 生	12	1.0
無 職	148	12.6
そ の 他	52	4.4
計	1,177	100.0

「会社員・団体職員」が最も多いが、各層から広く回答が寄せられている。

#### ④居住地

区 分	人数	回答率
大 津 市	253	38.6
彦 根 市	96	40.2
長 浜 市	48	35.3
近江八幡市	67	45.0
東 近 江 市	66	25.5
草 津 市	104	68.0
守 山 市	58	45.0
栗 東 市	53	26.0
甲 賀 市	85	78.7
野 洲 市	44	36.7
湖 南 市	43	35.8
高 島 市	54	31.4
米 原 市	28	41.2
志 賀 町	15	31.3
安 土 町	10	37.0
蒲 生 町	8	25.0
日 野 町	16	32.0
竜 王 町	12	41.4
能 登 川 町	18	36.0
秦 荘 町	5	29.4
愛 知 川 町	10	38.5
豊 郷 町	5	31.3
甲 良 町	7	41.2
多 賀 町	7	38.9
近 江 町	7	33.3
浅 井 町	14	48.3
虎 姫 町	5	41.7
湖 北 町	8	42.1
び わ 町	6	37.5
高 月 町	8	36.4
木 之 本 町	11	57.9
余 呉 町	5	55.6
西 浅 井 町	5	50.0
計	1,181	

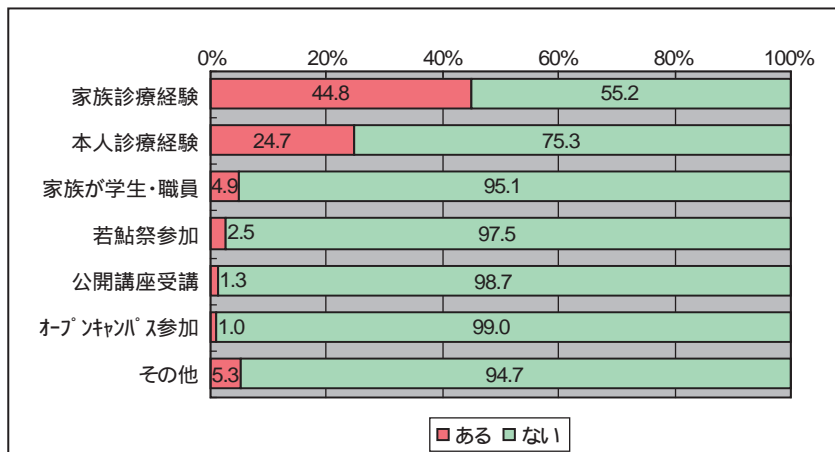
全県下より回答を得られた。市町村別の回答率をみると、最も高いのは甲賀市の78.7%であるが、本学の所在地である大津市や草津市から離れた湖北や湖西の市町村からも多くの回答が寄せられている。

#### ⑤居住年数

区 分	人数	%
3 年 未 満	19	1.6
3 ~ 10 年	59	5.0
10 ~ 20 年	109	9.2
20 年 以 上	999	84.2
計	1,186	100.0

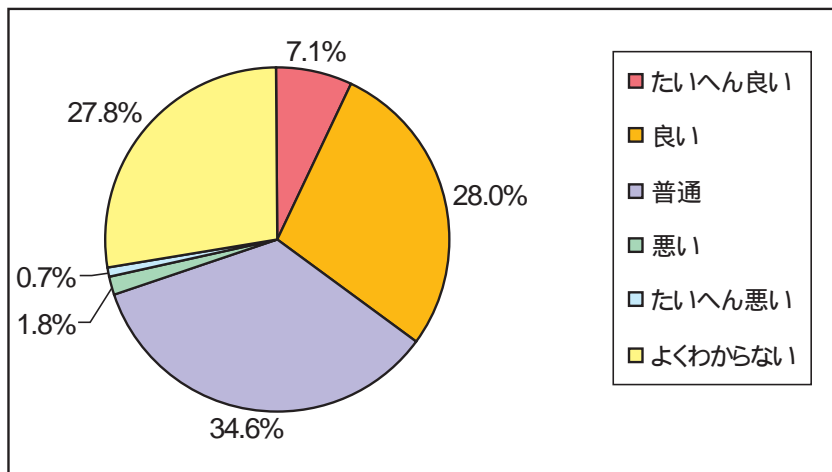
20年というのは定着人口のひとつの目安である。滋賀県は県南部を中心に流入人口が多いのが特徴とされるが、回答者の年齢・地域構成等の影響もあり「20年以上」が多くなっている。

## (2) 滋賀医科大学との関わり



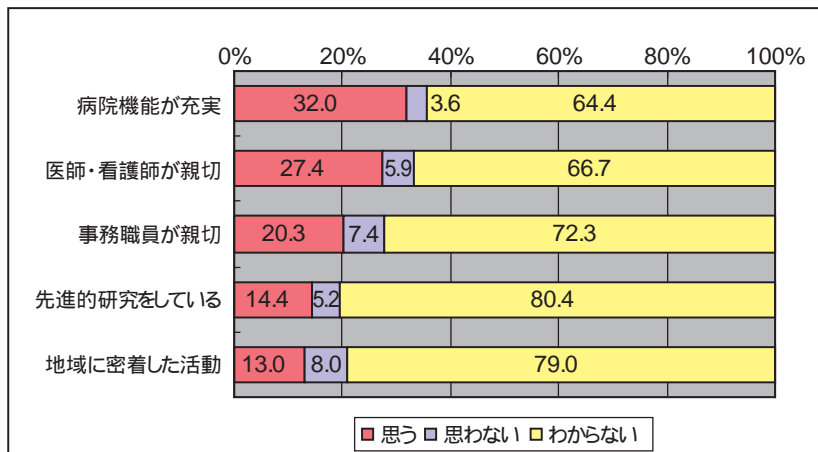
「家族が附属病院で診療を受けた経験がある」という人が44.8%ある。回答者自身の診療経験は24.7%であり、この2つで関わりのおよそ半分を占める。大学主催の公開講座などへの参加となると少なくなるが、実数的には決して小さくはない。

## (3) 滋賀医科大学に対するイメージ



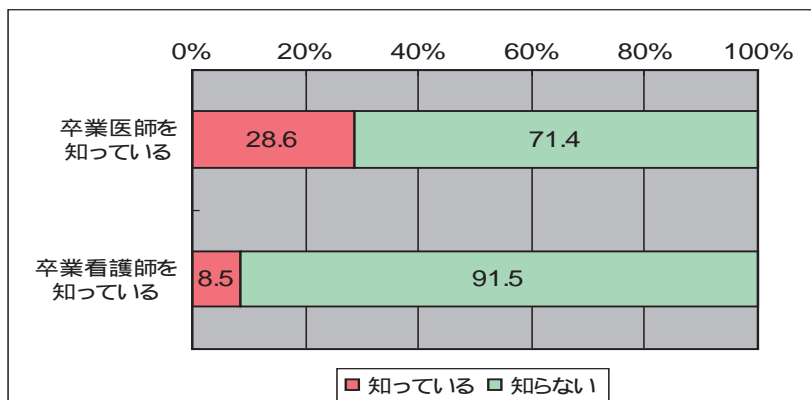
「たいへん良い」「良い」を合わせると35.1%になる。「普通」は34.6%であるが、「悪い」「たいへん悪い」は、合わせても2.5%とわずかである。その一方で「よくわからない」という回答が27.8%あった。この質問項目は今回の調査における中心的な変数の一つであるが、質問票を作成した時点では「よくわからない」という回答の割合がもう少し高くなるのではないかと予想していた。

#### (4) 現在の滋賀医科大学に対する評価



「病院機能が充実している」「医師・看護師が親切である」「事務職員が親切である」「先進的研究をしている」「地域に密着した活動をしている」について肯定するか、否定するかを尋ねた。これらは、「(3)滋賀医科大学に対するイメージ」を形作る背景になっていると思われるのだが、このように具体的な項目について尋ねるといずれも「わからない」という回答が多くなっていく。そして、滋賀医科大学の評価がまず附属病院によって決まってくること、一方、本学が現在進めようとしている地域と連携した医療や教育については知られていないことがわかる。「地域に密着した活動」で否定的意見の比率が高いのも少し気になるところである。

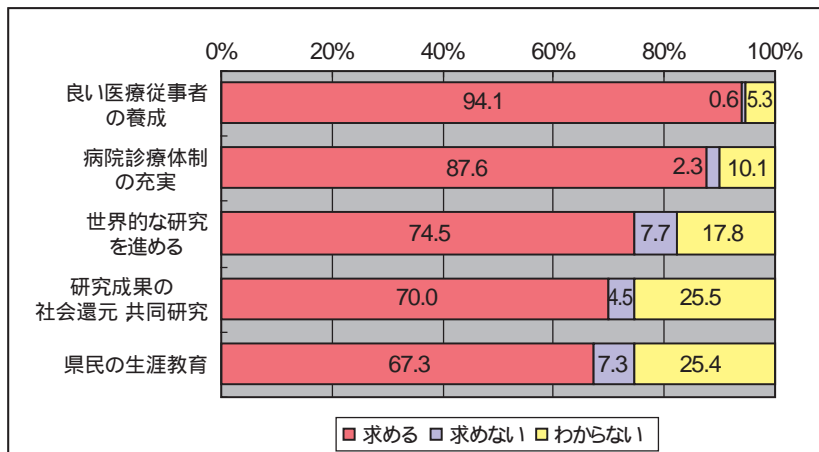
#### (5) 滋賀医科大学の卒業生を知っているかどうか



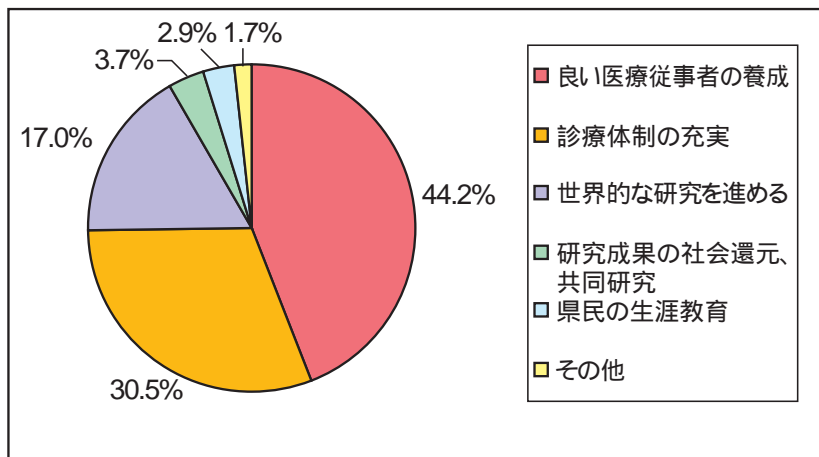
本学を卒業した医師や看護師を知っている人の割合はそれほど高くないが、知っている人たちに枝間で尋ねた評価はいずれも良かった。



## (6) これからの滋賀医科大学に求めるもの

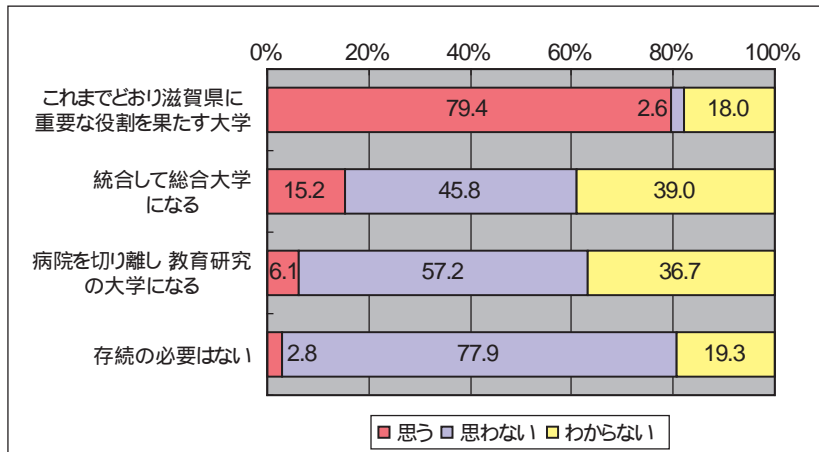


### 上記のうちで特に強く求めるもの



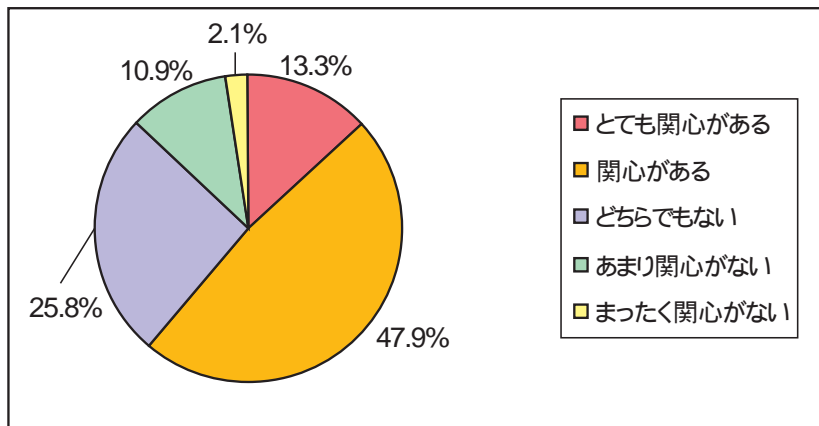
個々の項目における回答でみると、「求める」という回答はいずれも6割を越えている。なかでもいちばん多かったのは、「良い医療従事者の養成」の94.1%であり、次が、「病院診療体制の充実」の87.6%であった。また、これらの項目で特に強く求めるものは何かを尋ねた質問においても、第1位になったのは「良い医療従事者の養成」の44.2%であり、「診療体制の充実」を13.7ポイントも引き離している。教育、医療、研究という医科大学の主要な機能のなかで、県民は教育機能の充実を最も期待している。

### (7) 滋賀医科大学の将来像



4つの将来像を示して、そう思うか否かを尋ねた。4つの項目は必ずしも相互に排他的ではないが、その回答は明確に分かれた。「これまでどおり滋賀県に重要な役割を果たす」は、「そう思う」が79.4%という多数で肯定され、「統合して総合大学になる」は「そう思う」が15.2%と少数にとどまった。また、「病院を切り離し、教育研究の大学になる」と「存続の必要はない」も強く否定されている。県民は、現在の姿のままの滋賀医科大学が存続し発展していくことを望んでいると考えてよいかもしれない。

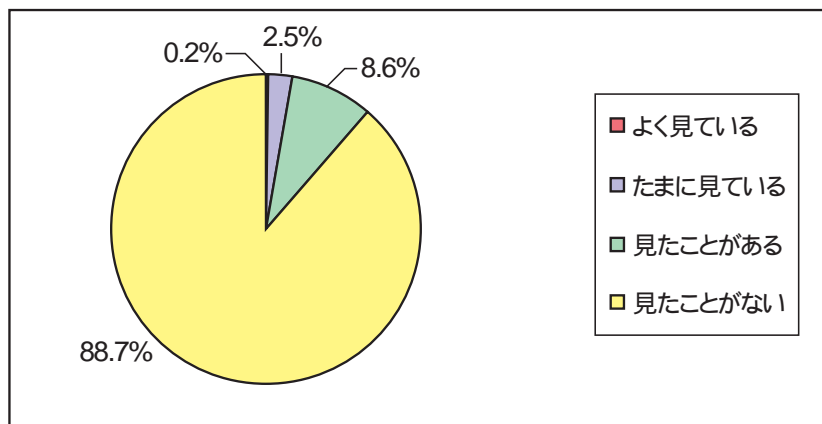
### (8) 滋賀医科大学の今後についての関心



「とても関心がある」と「関心がある」を加えると61.2%に達する。本学の将来について関心をもっている県民の方は多いといえるだろう。

## (9) 大学の広報活動

(ホームページ)



大学のホームページや「病院ニュース」などの広報誌を見たことがあるかどうか尋ねた。いずれも見たことがあるとの回答は少なかったが、「ホームページ」は、図に見るように、「見たことがある」を含めると11.3%となり1割を越えていた。

## 2 主な項目間の相互関連

### (1) 居住地から見た特徴

居住地を大学からの距離によって3つの地域に分類した。(調査時の市町)

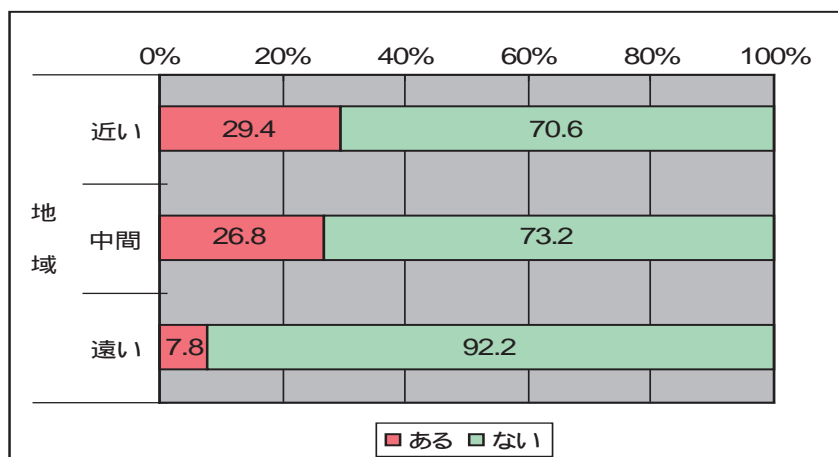
近い地域	：	大津市	志賀町	草津市	栗東市	守山市	野洲市	湖南市
中間地域	：	近江八幡市	安土町	竜王町	日野町	甲賀市	東近江市	能登川町
		蒲生町	愛知川町	秦荘町	彦根市	豊郷町	甲良町	多賀町
遠い地域	：	米原市	近江町	長浜市	浅井町	びわ町	虎姫町	
		湖北町	高月町	木之本町	余呉町	西浅井町	高島市	

別枠に示したように、調査対象の市町村を大学からの遠近によって3区分した。

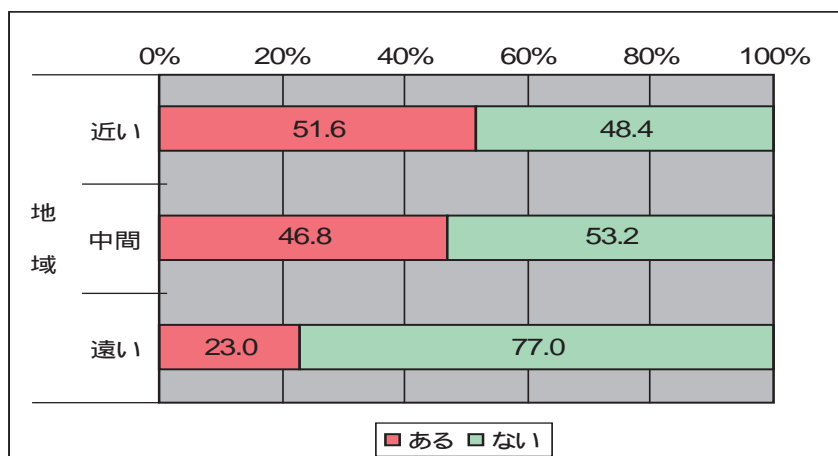
診療経験の有無には違いが見られたが、その他の回答では居住地域による差は出なかった。

#### ①診療経験

(本人)

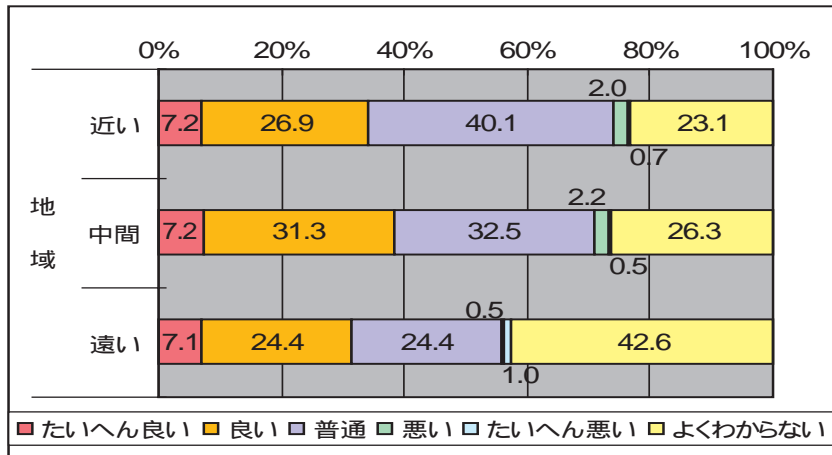


(家族)



本人、家族とも遠いほど経験者の率が下がる。特に「遠い地域」と他の2地域との間に大きな違いがある。

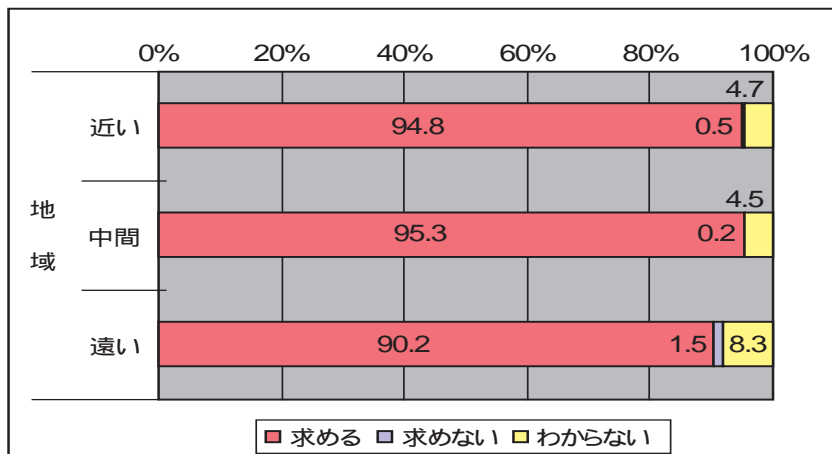
②滋賀医科大学に対するイメージ



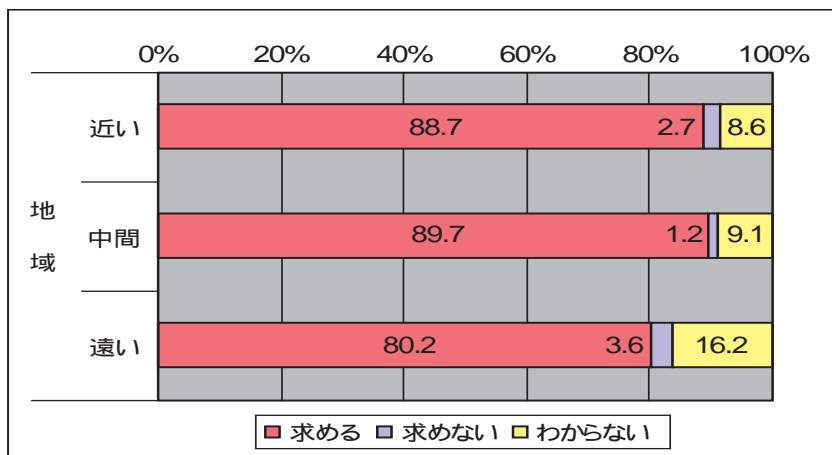
「遠い地域」ほど、「わからない」という回答者がやや増加する。しかし、それ以外の人々の間における「良い」「普通」「悪い」の割合は変わらない。

③滋賀医科大学に求めるもの

(良い医療従事者の養成)



(病院診療体制の充実)



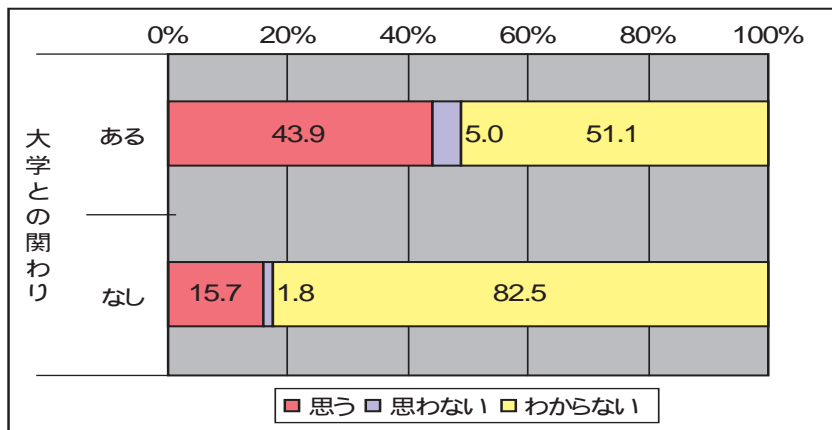
「良い医療従事者の養成」や「病院診療体制の充実」は、距離にかかわらず高率で求められている。

## (2) 滋賀医科大学との関わりから見た特徴

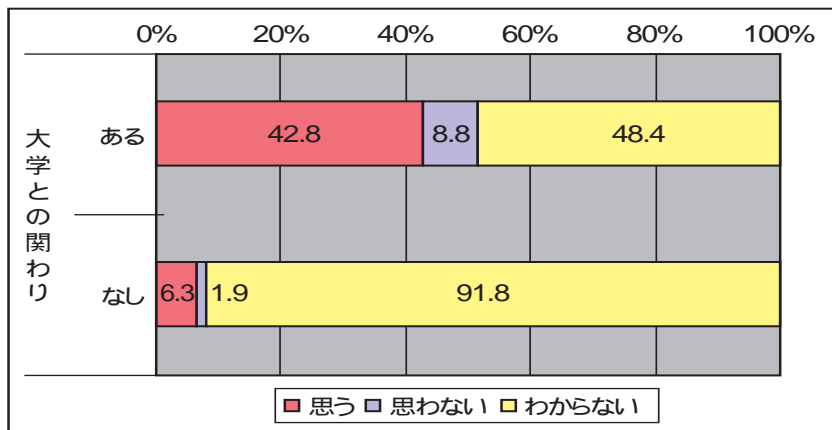
滋賀医大との関わりを尋ねた7項目について、「ある」を1点とし、その合計得点を求めると、関わりの「ある」人が全体の57.4%を占めていた。ここでは、1点以上を「関わりのある人」、0点を「関わりのない人」と区分した。評価やイメージには差があるものの、大学に求めるものや大学の将来像については、関わりの有無による大きな差は認められなかった。

### ①現在の滋賀医科大学に対する評価

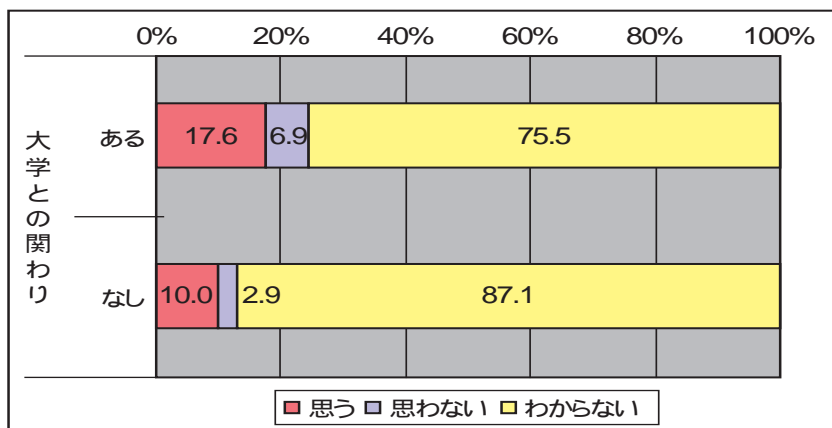
(病院機能が充実)



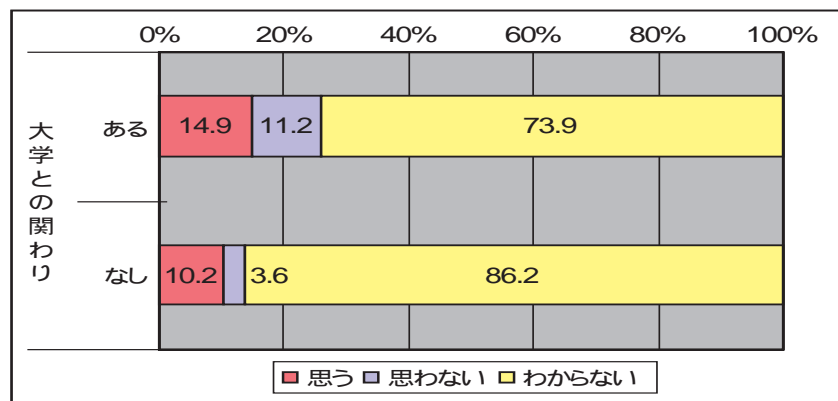
(医師・看護師が親切)



(先進的研究をしている)

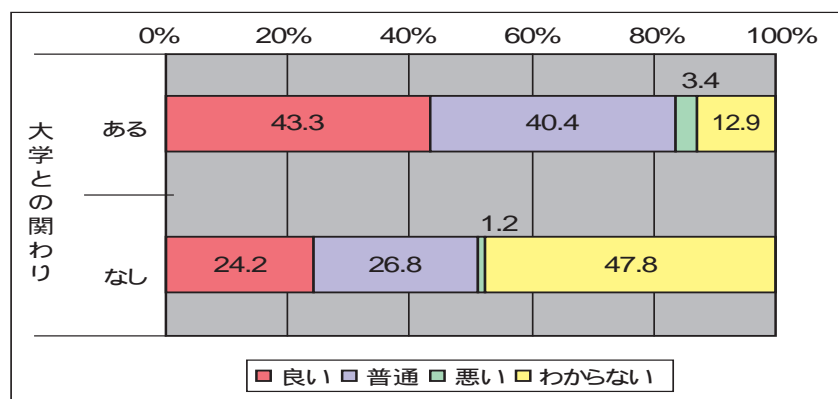


(地域に密着した活動)



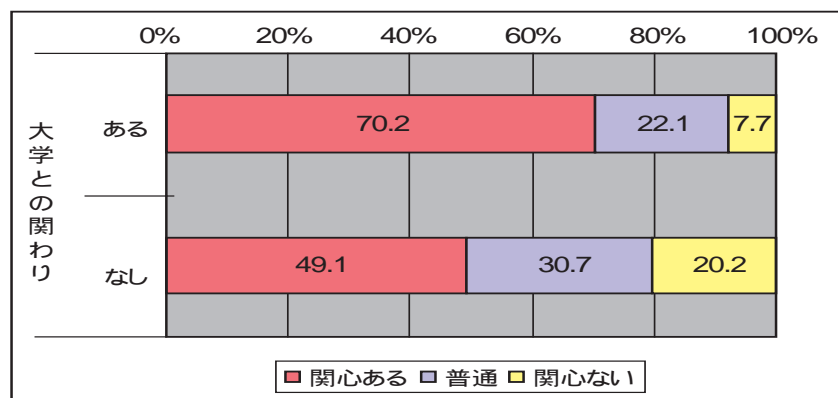
いずれの項目も、関わり「なし」人には「わからない」という回答が多い。これに対して関わり「あり」人には肯定的な評価が多く、また否定的評価も「あり」人で占められている。

②滋賀医科大学のイメージ



関わり「あり」人では、「良い」の割合が最も高い。これに対して、関わり「なし」人では「わからない」が最も多く、また「良い」よりも「普通」の割合が高い。やはり診療経験など大学と関わりを持つことで良いイメージが作られることがうかがえる。

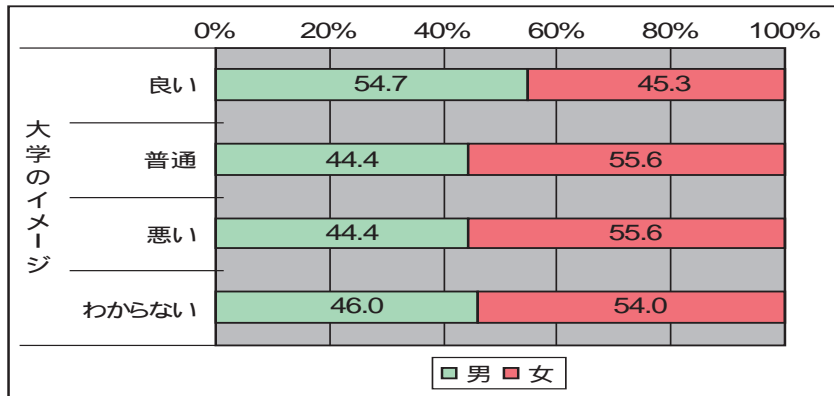
③大学の今後への関心



関わり「あり」人では「関心ある」が非常に多くなる。

### (3) 滋賀医科大学に対するイメージから見た特徴

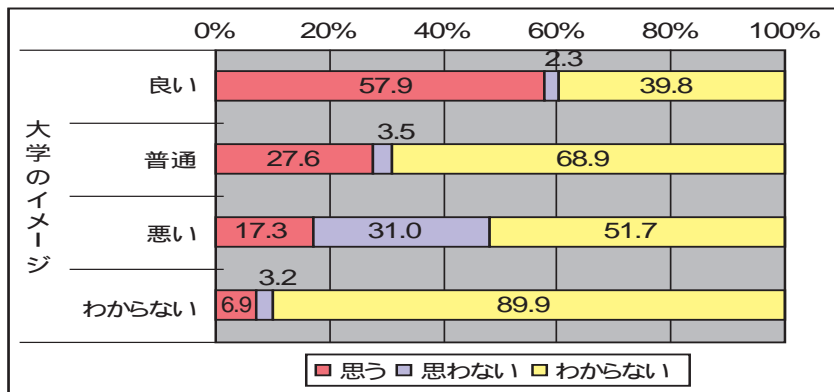
#### ①性別



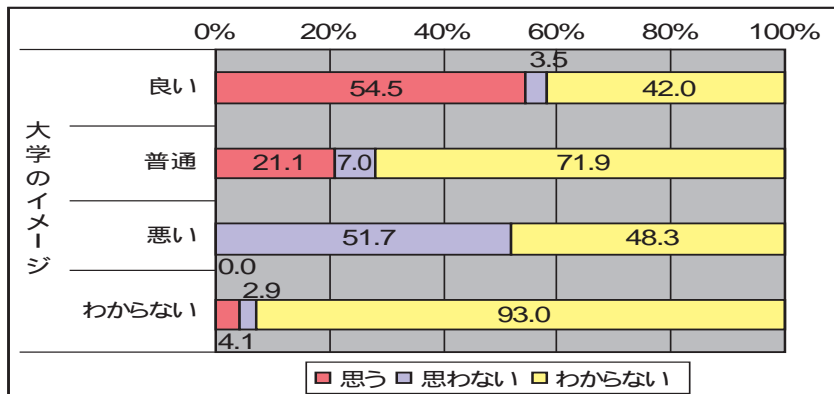
男性では「良い」が最も多いが、女性では「普通」が最も多い。女性の見方のほうがやや厳しいといえよう。

#### ②現在の滋賀医科大学に対する評価

(病院機能が充実)

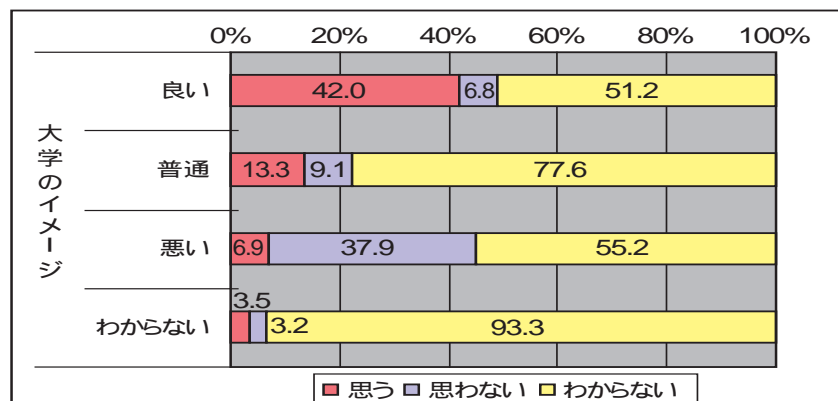


(医師・看護師が親切)

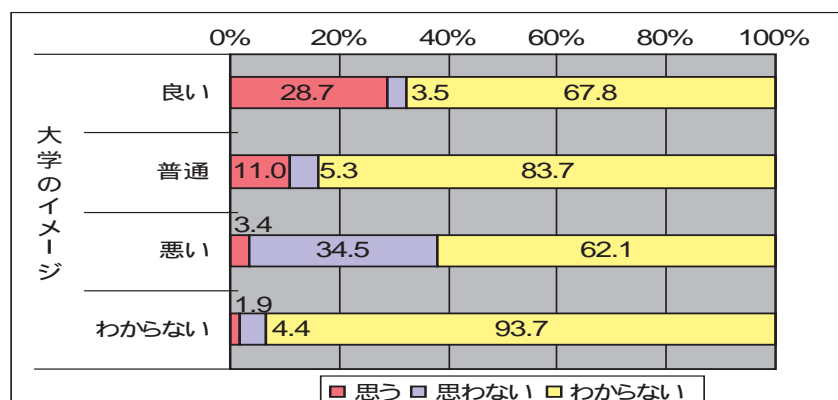




(事務職員が親切)

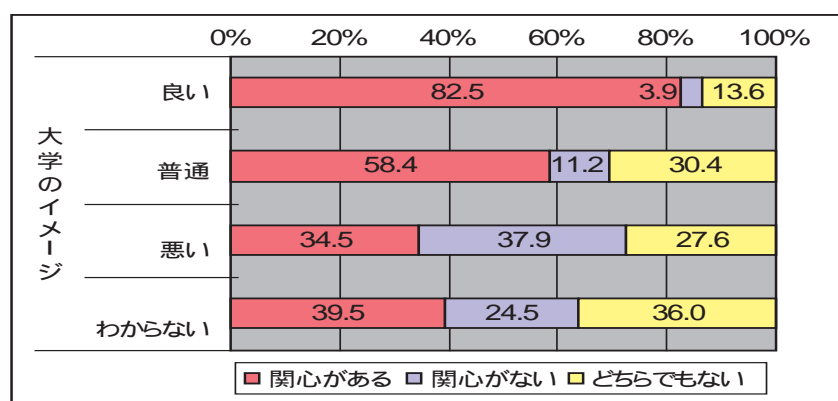


(先進的研究をしている)



4つの項目の中では、「医師・看護師が親切である」がイメージの善し悪しと最も関連性が強かった。

③大学の今後への関心



イメージと関心との関連性は非常に強い。イメージが良い人ほど関心は強くなる。イメージが「よくわからない」人では、関心も「どちらでもない」あるいは「ない」が多くなっている。

# 県民アンケートで出された主な自由回答

## 自由回答について

今回の調査票は質問項目も限られた簡単なものであったが、最終ページに比較的ゆとりをもたせた自由回答欄を設けて本学に対する意見を忌憚なく書いていただいた。通常の社会調査に比べても自由回答を寄せた人数は非常に多く、滋賀医科大学あるいは医療、教育への関心の高さをここでも伺うことができた。あまりに多数であり長文のものもあるのですべてを掲載することはできないが、ここでは代表的な意見を抽出しながら、いくつかの項目に分類してみよう。

やはりもっとも頻出するのは「地域との密着」を求める声である。具体的には良き医療人を育成して県下に送り出すことと先端医療を充実させて滋賀県の指導的な病院となることであり、アンケートの結果とも重なる。前者では、優れた医療技術を身につけることよりも人間性の豊かさを求める声のほうが圧倒的に多い点にも注目される。

大学の広報活動についての意見も少なからずあった。情報発信の不足を指摘する意見が多い。

附属病院についての意見も多岐にわたる。ただ、ハード面など、現在取り組んでいる、あるいは改善を予定している点を指摘したものが多くともいえる。したがってこの点についての評価は将来かなり変わるであろう。

### 地域の大学

滋賀県において重要な役割を果たす医科大学として今後とも期待している。このための活動、機能をそなえて頂きたい。

経済情勢の厳しい中で医大や病院の運営は大変だろうと思いますが、滋賀県になくてはならない県民に信頼される医大であってほしい。

存在感のある個性豊かな大学になって県民の若い人達があこがれ、めざす校風になってほしい。

地域に広く求められる医科大学に成長してほしい。研究も世界を目指してほしい。

医科大学と附属病院が県民の為になすべき医療とは存在意識をもっと高め、県内の病院と共同治療研究、相互交流等、目に見える治療、医療に取り組みされることを期待する。

滋賀県の病院、国立大学（病院・大学）として今後も研究に力を入れられ「地域密着型」、そして他府県からも頼られる大学として医師の養成を図っていただきたい。

何かひとつでも他大学に誇れる特色を持った大学になってほしい。より地域に密着した大学に。

信頼できるとても良い大学だと思います。これからも研究に力を注ぎ、良い人材を多く出していきたいと思います。

地方の病院にたくさんお医者さんや看護師を送り出してほしい。地方の病院があつてこそその医科大学と考える。

## 地域の大学病院

県内には滋賀医大以外にも国公立の病院はありますが、常に滋賀医大はほかの病院の中心的存在になってもらいたい。

これからも滋賀県民の為に存続していただきたい。地域に根付いたみんなの病院であり続けてほしい。

滋賀県民にとって滋賀医大は重要な医療機関であって、地域病院の支えであって、県民最終的医療（先端医療）の行える希望の病院であってほしい。

医大附属病院は「お高くとまっている」というように思います。何故か敷居の高い病院のように思っています。

## 大学の再編・統合

大学と病院とは切り離さずに多々の難病の研究を医学育成と共に推し進めて頂きたい。

滋賀大、京都教育大との合併話が浮上していますが、それぞれの特色を生かし、各校とも現状のままの存続を希望します。

問題はあるとは思いますが、総合大学としてほしい。

大学は、collegeより絶対にuniversityです。滋賀大・滋賀医大・滋賀県立大を統合して、是非、総合大学(独)滋賀大学となってください。

## 大学・病院の情報発信

PRを含めて、情報発信を活発にすべきと考える。

医科大学での最重点項目についても、行政区の広報等に掲載して広く一般に知らせよう努力してほしい。

県とか各自治体への広報等、もっと幅広い年齢層に当大学がされていることをアピールしていただきたい。ホームページは多少でも関連があると見ると思うが、まず見てないのが現状です。湖北地区にももっと身近に感じられるような医科大学の運営等希望します。

大学病院はどうした方々を対象にした病院かサッパリ分かりません。パソコンの使えない老人も多いと思います。各市町村等へも滋賀医科大学便り等の情報等、流してほしいと思います。どんな病院で何科があるのか、一般の人にも把握出来、身近なつながりのもてる大学病院であってほしい。

研究、診療等の成果をPRする。

例：新聞、テレビの県内版でニュースとしてPRする。

ホームページに、いろんな病気についての説明とか相談コーナーなどを作っていただきたいなあと思います。

## 大学の教育・医療人の育成

滋賀県内出身者の推薦枠を少しでも増やしていただけたらありがたいです。又、学力だけでなく人間力、人間性なども重視する方向に進んでいただければ、県民への貢献は更に大きくなるものと期待しております。

良い医療従事者を養成することに努力すれば自然に診療体制も充実してくると思う。まずは人の養成であると思う。

良い人材を育成して素晴らしい医療につなげていてもらいたいです。今までどおり！

将来医師や看護師になる人の医療技術はもちろん“心”・人間性を育ててほしいです。

今後も患者さんの病状だけを診るのではなく、その病状を抱えた人としてみていただけるような人材を養成してくださるようお願いいたします。

老人の考えですが、お医者様を育ててくださる中で、メカに頼る医療の現場の中で老人に対し、言葉での説明・触診での暖かさ、そういった原点にかえっての医療も同時に教育してほしいと思います。暖かい心を持った医師を育ててほしい。

医大にお願いしたいのは、医者として患者になって接することの出来る良い医者を育ててほしいということ。患者は精神的に弱くなるもので、心から信頼できる様な医者に診てもらいたいもの。金儲けのための医者はいらない！ 威張り散らす医者は入らない！ 人間として誰からも信頼されるような医者がほしい。滋賀医大は、とんでもない医者を絶対に作らないでください。

僻地へも抵抗なく赴任する心豊かな医師・看護師の育成を、今以上に心がけていただきたい。

近隣の病院等に是非共、優秀な医師を配属していただきますように強く希望いたします。

様々な医療機関がありますが、ここ数年医師や看護師の事件や事故が多いのでしっかりとした人材を育成していただきたい。

## 大学の研究

滋賀県の医療機関の最先端として医療研究の推進をよりはかっていただきたい。

難病とかいろいろな病気また認知症など世界的な研究をお願いいたします。

リウマチや癌など不治の病として知られている病気に対して、積極的に研究に取り組んで頂き、治療薬の開発に努めて頂ければ幸いです。

東洋医学と西洋医学の利点を合わせて研究してほしい。

## 大学と地域との連携

地域と連携し、生涯教育の機会を増やすこと。専門的な知識を習得したい人達への教育の提供。滋賀医大が滋賀県の医療ネットワークの中心として県民全員が同じ医療を受けられる条件作りを担ってほしいと思います。

地域別に多い病気については滋賀県内のことであれば滋賀医科大学が中心になって行政と共に生活指導され、住民が安心安全な生活をすごせるような行動を期待しています。

地域密着の予防医療の中心的指導機関として期待している。

## 附属病院へのアクセス

滋賀医大病院へ行くには瀬田駅からバスを利用しなくてはなりません。便数を増やしていただければお世話になるのもっと便利だと思います。

滋賀医大は駅から遠く不便である。路線バスかマイカーでしか行く手段がないように思う。国立なので病院バスを持つことは無理かもしれないが、あればよいのに思う。

私の住んでいる所は滋賀の北の方で、交通の便を考えるとどうしても滋賀医科大学へは無理です。場所が悪い。行きにくい。交通が不便すぎる。無料の送迎バスを15分おきに巡回してほしい。滋賀県民のみのサービスがあっても良いと思う。

## 附属病院内の環境

駐車場から玄関までの距離が長いことと路線バスのバス停も玄関先で乗降出来たらいいのに……と思いました。

外来の方の玄関（入口）より各科診察室の雰囲気が全体に明るさがないように思います。病人にとりましては明るいイメージが一番大切だと思います。

わかりやすい窓口にしてほしい。

高齢化が進んでいるので、全ての面で高齢者の配慮が必要であると思います。

病室がもっとキレイになればと望みます。

ナースステーションの前と病室の廊下の所が機械とかいろんな物がいっぱいで見苦しく感じました。

病棟内に車イスでも入れるようなトイレを作ってください。

家族やお見舞い客等のための部屋を設置してほしい（コミュニティホールみたいなもの）

## 附属病院の診療体制

患者の診察時間、薬の待ち時間等、滋賀医大で受診するためには一日仕事になり、なかなか気軽に行ける病院ではありません。もっとこれらの時間を短縮するために工夫がないものか、検討すべきではないでしょうか。

各科の受付時間及び予約での待ち時間が長すぎると思います。何分くらいの待ち時間かを知らせる必要があると思います。

予約した時間に診てもらえるようにしてほしい。外来と予約患者を診る医師を分けてほしい。検査するまでに日数がかかりすぎる。

2科で受診していますが、担当医の変わる早さが気になります。

## 病院職員の対応

親切で心のこもったかわり，診察，をしていただきました。優しい心のこもったあたたかい病院であってほしいですね。

患者数も多く時間がかかる事は理解できますが、医師、看護師の態度、言葉遣いなどの基本的な事をもう一度見直してほしいです。

大学病院では専門別に細分化され、研究、治療をされているため仕方のないことかもしれませんが、患者の身体を各パーツで診るのではなく、全体の中の疾患としてとらえて診察をしてください希望します。医師の専門外であるならば、専門の他の医師または医療機関を紹介しても何ら恥ずべき行為ではありません。患者名に「様」をつけて呼ぶことよりも、大切なことは身体のパーツ毎にみつめる診療ではなく、患者をみつめる診療をしていただきたいと思います。

お医者さまと話がもっと気軽に出来るようになってほしいです。

回診の時、主治医の先生のあとから12・3人もの先生が来られて、手術内容について説明されていたのですが、ベッドのまわりに白衣の先生に取り囲まれて、あまりいい印象を受けませんでした。大学病院と聞くと、患者はモルモット扱いのように思います。若い先生には、患者を直接見せて、勉強するのはわかりますが、患者に対しての配慮がもう少しあってもいいのではありませんか。

## 附属病院の医療

滋賀県内での最先端の医療技術を備えた総合病院であって欲しいと思っております。

医大独自の研究を進めると同時に、現在の日本における最先端の医療技術を導入し、実際に治療が行えるように努力することが県民の信頼につながるのではないのでしょうか。

全ての分野で先端医療を行う必要はないと思うが、特定分野で先進的な医療を行ってほしい。

癌治療に力を入れ早期発見で完全に癌が治る方法の手立てを考え県民が進んで健康診断を受けるよう工夫して下さい。

少なくとも滋賀県内の特異性のある疾病の情報、治療等に関して最先端であることを期待しています。

「生かせる」医療ばかりでなく、ホスピスケアについても充実した病院にしてほしい。

## ま ・ と ・ め

これまで紹介した結果をまとめると次のような点を指摘できるであろう。

まず、実際に滋賀医科大学と何らかの関わりをもったことがある人たちは、調査対象者の半数を占めている。この関わりの主なものは本人や家族の診療経験であり、それは居住地域が大学に近いかどうかにかなり左右される。附属病院の患者は県下全域にわたり、近距離に限られるわけではないが、湖北や湖西からの来院者はやはり少ないと考えられる。

しかし、関わりがあるかどうかや居住地域はそのほかの質問項目の回答には決定的な影響を及ぼしていない。関わりがあるほうが滋賀医科大学に対する良いイメージを形成することに繋がっているが、関わりがないことがイメージを悪くしたり、関心を失わせることに繋がっていないからである。附属病院における診療経験、特にスタッフとの関わりは、大学に対する良いイメージを形成することによってプラスの要因となっていると思われるが、それらとは別に医科大学というもののイメージがもともと悪くないのかもしれない。これに関連して、大学の現状についての具体的な評価もイメージの良し悪しにそれほど繋がっていないようだ。「わからない」という回答が多数を占めていることから、評価の根拠となる情報や経験の乏しいことが推測される。とりわけ附属病院における診療以外の教育、研究、地域医療など大学が行っている様々な活動は直接関係する人たち以外に知られることは少ないためであろう。

**大学に対するイメージの良さと並んで、大学の今後についての関心も同じように高い。**具体的な将来像としては、現在の姿のままで滋賀県に貢献し続けることが強く肯定されている。また、大学に対する期待も非常に強い。病院診療体制の充実もさることながら、やはり**良い医療従事者を養成するという本学の建学理念が、そのまま調査対象者である県民のいちばん求めていることと重なっている。**

このような結果から、問題点も浮かび上がってくる。良いイメージや関心を抱いていただいているにもかかわらず、それに応ずるべき大学についての情報は対象者たちの手元に届いているとは言い難かった。最大のPRは附属病院におけるより良い医療の提供であり、地域で活躍できる医療人を送り出すことであるけれども、**大学の活動内容を県民に知ってもらうことも大切である。**待合室などに置かれることの多い大学の広報誌は充実したものであるが、手にとって読まれることは少ないかもしれない。ホームページへのアクセスは時代を反映して予想外に健闘していた。ホームページも年々充実してはいるが、今後は、閲覧者はさらに増加すると予想される。また、SP(模擬患者)や医療人GPなど医学教育に市民や患者さんが参加する試みが始まっているが、このような市民参加型の教育を拡大することも大学と県民の距離を縮めるよい方法であるかもしれない。

これまでのところ他の医科大学に比較するデータがないので今回の結果がどの程度良いのかそうでないのか判断しがたい点は残るが、**本学が滋賀県という地域に根付き県民の期待を背負っているという事は確かであろう。**われわれとしては何年か後に、類似の調査をした折りに、今回よりも良い結果が出るように滋賀医科大学の教育、研究、診療を発展させていかなければならない。

(県民アンケートワーキンググループ)

## アンケートの結果を受けて

### 【大学の取り組み】

本学は、学部教育のみならず大学院教育課程においても医療人としての適切な判断と考察する能力を養い、高い倫理性やコミュニケーション能力を培うカリキュラムの工夫を行っています。また、地域の医師会や患者様のご協力をえて、学生が地域医療の実際と患者様の視点で医療を考える取り組みを文部科学省の競争的資金をえて実践しています。

研究については分子神経科学研究センター、MR医学総合研究センター、動物生命科学研究センターが共同して、神経難病や再生医学の基礎研究、MR医学の基礎的臨床的研究、鳥インフルエンザウイルスに対する基礎研究、さらに健康、特に循環器疾患に対する疫学調査など独自の研究を推進しています。

本学の医療人育成教育研究センターでは、大学の入試に係わることから学部教育、大学院教育、教育の質の向上、学生生活支援、また卒前と卒後の評価まで5部門2室で総括して行っております。

「地域の大学」、「大学の教育・医療人の育成」、「大学と地域との連携」などの項目にまとめていましてご提案については、本センターを中心に取り上げて検討させていただきます。

また、大学の研究については特色あるプロジェクトを行っていますので、皆様に積極的に広報し、ご理解いただけるように努めてまいります。

### 【附属病院の取り組み】

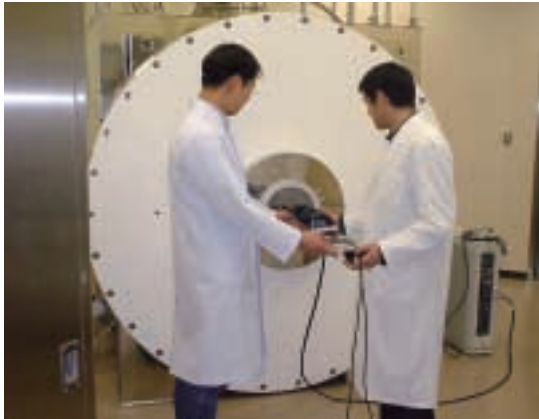
附属病院では、5カ年にわたる病院再開発事業として、まず新病棟の建築に着工しました。この事業が完成しますと、病院内の環境はもちろん患者様のアメニティはずいぶん改善されるものと期待しております。

また、バス停留所が遠くて非常に不便だというご意見が多くありましたが、病院玄関前まで乗り入れられるようになりました。

本院の「患者サービス向上委員会」では、患者様へのサービス向上にむけ次の項目について重点的に検討・改善を行っております。今回いただきました貴重なご意見・ご提案をもとに、より地域の皆様から愛される大学病院になるよう今後とも改善を行ってまいります。

- 1) 本院は滋賀県内唯一の大学病院、特定機能病院です。滋賀県における中核病院としてより「信頼・安心・満足を与える地域に密着した病院」になるよう改善に努力しています。
- 2) 診療等の待ち時間の短縮につきましては、改善の重要項目と考え、予約体制の改善による待ち時間解消、待ち時間のお知らせ方法の改善にむけ検討を行っております。
- 3) 本院を受診していただく患者様に対する態度、言葉遣いは「あたたかい心で最先端の医療を提供する病院」として重要なことと考えており、病院職員の接遇教育の強化、改善を行っています。





7テスラMR装置



看護実習



病院玄関前バス乗り入れ



新病棟外観図

お問い合わせ先

滋賀医科大学 企画調整室

TEL : 077 548 2012

E-mail : [hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp)

住所 : 〒520 2192 大津市瀬田月輪町

HPアドレス : <http://www.shiga-med.ac.jp>



発行 / 平成18年 3 月  
編集 / 滋賀医科大学企画調整室